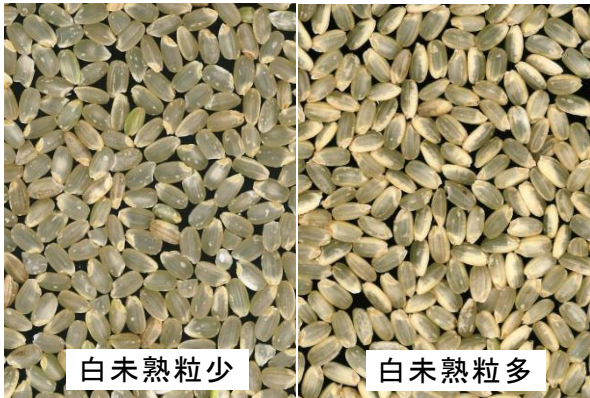


高温障害を軽減する「彩のかがやき」の追肥方法

水稲の穂が出た後、著しい高温が続くと、お米が白く濁る高温障害(白未熟粒)が発生します。本県でも平成22年に「彩のかがやき」が甚大な被害を受け、その後もたびたび被害が発生しています。そこで、「彩のかがやき」の白未熟粒の発生を軽減する追肥技術を開発しました。

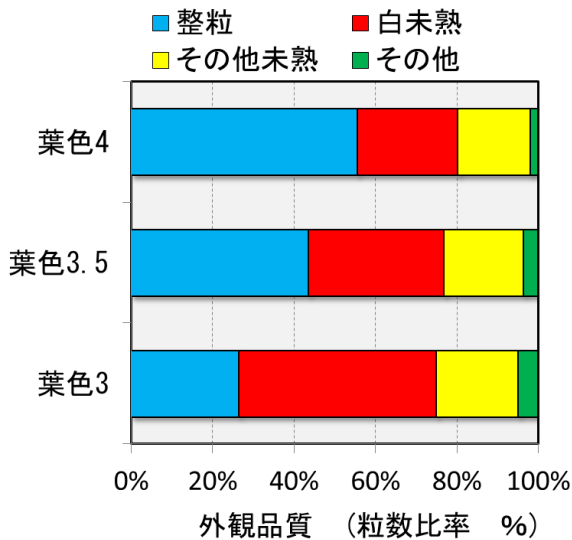
白未熟粒の発生にもっとも関係しているのは出穂前23日頃の葉色で、薄いほど増加します。また、穂肥施用後の出穂前15~10日の葉色が薄いと増加します。そこで下表のように所定の時期に葉色診断を実施し、その結果に合わせて追肥を実施することで白未熟粒の発生を軽減することができます。



白未熟粒
玄米の中にデンプンがきっちり詰まらずに隙間ができて白く濁る



葉色診断
葉色板と稲の葉の色を全体的に比較し、葉色を測定する。



出穂前23日の葉色と外観品質

診断時期	移植後40~45日頃	出穂前22~23日	出穂前15~10日頃
追肥方法	4.5以下 2kg/10a程度を追肥	4以下 3kg/10aを限度に追肥	4以下 2kg/10a程度を追加施用
	4.5以上 追肥は行わない	4以上 4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら2kg/10a程度を追肥。	4以上 追肥は行わない

※ 追肥量は10a当たりの窒素成分

葉色診断による追肥方法
(彩のかがやき 早植)